



## 恵那市史からみえる、スペイン風邪の流行

大正7年に流行したスペイン風邪の死亡者は全国で15万人といわれ、岐阜県下でも4,320余人となっています。

恵那市ではどうだったのでしょうか。『恵那市史』によると、長島町では感染者が千余名、死者が25名となり、「近年稀有の悲惨事」となったとあり、『笠置村誌』では笠置村全戸で感染が見られ、7名の死亡者が出たとあります。

三郷村野井小学校では、大正7年11月29日から3週間学校閉鎖をしていますが、当時の郡役所からは次のような予防注意報を出しています。

- ①児童ノ健康状態ニ注意シ本病ニカカル者ハ登校ヲ禁スルコト
- ②運動会、修学旅行等ハ此際可成延期ノコト
- ③虚弱児童ニ対シテハ体操、唱歌等身体ヲ疲労シ若シクハ咽喉ヲ刺激スル学科ニ注意スルコト
- ④学校清潔方法並学校伝染病予防及消毒方法ヲ励行セシムコト
- ⑤学校ニオイテ掃除ハ此際勤メテ湿拭法ヲ用ヒ教室内ノ塵埃飛散ヲ防グコト
- ⑥蔓延ノ兆アル時ハ、時期ヲ失セズ学校ヲ閉鎖スル等速カ適當ノ処置ヲ講ズルコト

このように運動会や修学旅行の延期や、音楽で咽喉を刺激しないように注意するなど当時の取り組みが分かります。

この感冒は一旦終息したかに見えましたが、翌年再び流行し大正11年まで続いています。新型コロナウイルスの第2波、3波が危惧される中、個々の予防意識が大切だと改めて感じさせられます。

(『恵那市史 通史編第3巻』、『笠置村誌』を参考)



### スペイン風邪に 関連する本

#### 『インフルエンザ・ハンター』

ロバート・ウェブスター/[著] 田代真人/監訳  
河岡義裕/監訳 岩波書店 493.8/ウ

スペイン風邪が描かれている小説  
『愛と死』

武者小路実篤/著 埼玉福祉会

913/ム 大活字コーナー

『流行感冒』

(『小僧の神様 他十編』に収録)

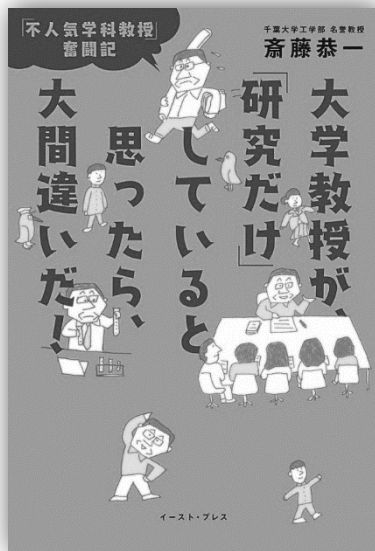
志賀直哉/作 岩波書店

918/イ 全集コーナー



スペイン風邪インフルエンザ大流行から100年。インフルエンザ界のインディ・ジョーンズが、自身の研究人生を軸にインフルエンザ研究史を語る。輝かしい研究成果の陰には失敗もあり…。痛快エピソード満載の科学冒険物語。

# この本読んだ!?



『大学教授が、「研究だけ」していると思ったら、大間違いだ!』

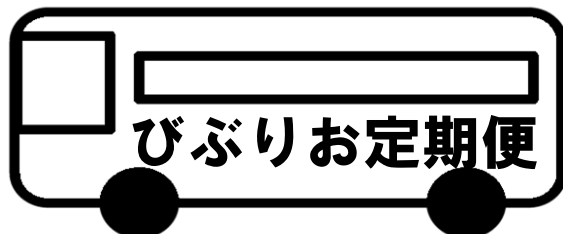
『不人気学科教授』奮闘記』

斎藤恭一/著 出版社：イースト・プレス

分類：377.1/サ

## 内容紹介

“大学崩壊”なんて嘆いている暇はありません。教授はただの研究者ではなく、「勤め人」であり、「教育者」です。不人気学科教授が、予算確保に、受験生獲得に、学生指導に奮闘した記録を綴ります。



市内の高校4校の先生、生徒のおすすめ本を月替わりで紹介します。今月は「恵那高等学校」です。

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

ブレイディみかこ/著

出版社：新潮社 分類：376.3/フ



## 内容紹介

人種も、信条も、生活環境も様々な生徒が集まるイギリスの中学校に通うことになった息子と母親の奮闘記。

イギリスが舞台ですが、日本に住む私たちも直面している社会の問題が描かれています。

本当の意味での「多様性とは」を考えるきっかけになる1冊です。